



KALS 大学院入試対策講座 受講生の皆様

100%合格に向けて！チューターからメッセージ

2008 チュートリアル通信

【心理系大学院受験対策④】

河合塾KALSの大学院入試対策講座（心理系）では、チューター制度を導入しています。このチューターには、当校の合格者OBを中心に編成。授業での合格指導のみならず、受講生向け学習ガイダンス「サクセスチュートリアル」や個別相談などを通じて、受講生からの進路・志望先に関する事、自主学習に関する事など、合格に向けてきめ細かくアドバイスをしています。以下は、チューターから心理系受講生の皆さんへのメッセージです。今後の受験対策のご参考にしてください！

心理系大学院受験 成功へのみちしるべ ～「心理学の勉強法」～

最初に、私がこれから紹介していく勉強法は、合格者の多くの方が行ってきた勉強法ではありますが、これが唯一のものでもなく、必ずしも正解でもありません。一例としてご紹介しますので、読んでいただいて「いい勉強法だな。」と思ったら採用してください。

心理学初学者向けの勉強法（これから心理学を勉強する人、他学部出身者で一般教養に心理学を取られた方）

まずは心理学全体を知る必要がありますね。臨床心理学は心理学のすべてではなく、心理学の中の一領域に過ぎません。心理学という学問は、大きく「基礎心理学」と「応用心理学」の2つに分かれています。基礎心理学の概念を使ってそれぞれの領域に沿うように応用したものが応用心理学であり、臨床心理学はその応用心理学の中の一つであって、たとえ臨床心理学専攻志望の方でも、基礎心理学の知識がなくては、心理学を勉強したことにはならず、臨床心理学だけ出来ても合格できません。

初学者の方が勉強するには、概論書を2～3回繰り返して、小説を読むように読んでみましょう。概論書とは、心理学科の大学2年生が始めて専門科目として勉強する時に使用するテキストです。（『心理学』というタイトルで心理学の歴史から、心理学各領域について説明しているものがそれにあたります。）それにより、大きい心理学の流れをつかむことができ、これから勉強するにも「聞いたこともない」が、「どこかで聞いたことがある」に変わるはずです。聞いたこともない事が多くなると、興味も失せるし、挫折しますよね。

そのためには是非、この作業はぜひお勧めです。そして全体が大きく把握できてきたら、もう一歩前進して、専門書を読み始めましょう。

既習者の方向けの勉強法（心理学科卒業の方、初学者の勉強を終えた方、認定心理士取得の方）

心理学については、一通りの知識がある方は、より実践的な試験勉強に入りましょう。手始めに志望校の過去問を入手してみましょう。

大学院の過去問題を見てみると、専門科目の問題は、用語説明、論述、記号解答、()埋め問題と4つぐらいの出題形式のバリエーションがあります。

用語説明、論述問題はどこの大学院でも出題されます。そして論述解答欄のスペースも広いですね。記号で答えたりする問題より圧倒的に記述問題が多い。そこが大学受験との違いのひとつでしょうか。

問題をよく見てください。どのような出題形式であっても、必要なのは心理学に関する知識が問われています。心理学の専門用語を他の人よりもより多く、正確に覚えていて、かつ、的確に理路整然と文字化・文章化できるかが勝敗を分けます。(当たり前のことですが。)

『知っている』と『書ける』とでは、意味が違います。問題を見て、少し勉強された方なら「こんなことを書いたらいいかなあ」ということがなんとなく分かるかもしれませんが、答案用紙に「こんな感じ・・・」とは書けません。的確に・過不足なく文字に出来なくてはなりません。

そのためにはきっちり、インプットとアウトプットの練習が出来ていなくてはなりません。「書いて覚える」この練習は絶対に必要です。

何と言っても、専門科目の勉強で中心となるのは、用語説明。用語説明の勉強法をご紹介します、

【専門用語を一つ一つ複数の辞書や専門書、用語集を読んでみて、その中から得た情報を自分の言葉で200～300字でまとめる。】

この作業を続けます。それなら、用語集を丸暗記したらいい。と思われるかもしれませんがね。しかし、どうでしょう。分からないものを分からないまま覚えるのは忘れるのも早いし、第一頭に入りません。また、その用語を説明する際に述べなくてはいけない定義が必ずあります。それをしっかり捉えながら自分の言葉で分かりやすくまとめなおす。

この作業を繰り返し行います。この作業は非常に多くの労力と時間を要し、書くだけ時間の無駄と思うかもしれませんが、合格者の多くの方々が採用している勉強法でもあります。

まとめる・書くという作業が進めば、知識が集積されて、記号解答や()埋め問題も答えられるようになり、さらに多くの専門書や辞書を調べてまとめているので、文章構成本もついて論述問題が答えやすくなることでしょう。

論述問題は、心理系大学院の場合、「小論文」のように“何かのテーマが与えられ、それについて自分の考えを述べる。”という問題ではなく、用語説明をベースに、1.用語説明の文字制限が長いもの—例「〇〇について、述べなさい。」2.用語説明を2つまたは3つを組み合わせたもの—例「〇〇療法と〇〇療法について似ているところと異なるところを述べなさい。」3.上記のような記述に加えて「あなたの経験」や「あなたの考え」を述べなさい。」という3つの形が主流です。つまり、すべて心理学の知識を問うものであり、論述問題といっても用語説明が出来ないと答えられないのです。

さらなる「書く練習」の特典は、この書く練習によって心理系英語もレベルアップしていきます。専門用語を調べるとともに英単語も一緒に覚えれば、心理系英語のTechnical termの勉強も同時に出来ます。そして英文を読んでいて多少分からない単語があったとしても、心理学の知識を駆使してじっくり読めば、心理学のどの領域の、どの部分を述べようとしているのかがわかるようになります。

大意要約のような問題であつたら、英文を読む時間が少なくて済むかもしれませんし、他の問題に時間を譲ることが出来るようになるかもしれません。

2008/05/15

では、どれくらいの数の用語を覚えれば合格できるのでしょうか？ それには答えはありません。他の人よりもより多く正確に覚えているものが多ければ多いほど、合格に近づきます。当然、一度まとめただけでは完全には覚えられませんし、繰り返し読んで修正加筆し、精度を上げていきましょう。勉強が進むと過去の自分のミスに気がつくはずです。

「書いて覚える」練習の他に、本はたくさん読んでください。それは、心理学に関する本に限らず、必要になれば医学、社会学、教育学、統計学、福祉学、女性学などなど、興味あるものや必要と思われるものはなんでもチャレンジしてください。このような興味の探求は、きっと今後のあなたに役に立つことと思います。

KALS横浜校 石井チューター

<http://www.kals.jp/>

河合塾KALS新宿校	0120-19-5949	火・土 10:00～20:00 / 日 10:00～18:00(月曜休)
河合塾KALS横浜校	0120-39-5949	火・金 10:00～20:00 / 土・日 10:00～18:00(月曜休)
河合塾KALS名駅校	0120-16-8949	火・金 10:00～20:00 / 土・日 10:00～17:30(月祝休)
河合塾KALS大阪校	0120-27-2949	火・土 10:00～20:00 / 日・祝 10:00～18:00(月曜休)
河合塾KALS京都校	0120-59-4149	火・土 10:00～20:00 / 日・祝 10:00～18:00(月曜休)

まぐまぐ「臨床心理士指定大学院合格を勝ち取る！Vol99(2008.5.8号)より抜粋 Copyright 2008 KAWAIJUKU EDUCATIONAL INSTITUTION.

2008/05/15

河合塾 KALS